

られているが、内容に錯誤が多く、今後の校訂が必要である。その中でも内容の整っているものは、京大富士川本である。

江戸後期の日本伝統医学において、あらゆる面で他派を凌駕しつつあった考証学派の始祖道琢に再び光をあて、その遺業を正しく評価することは今後の漢方研究上においても極めて有意義なことと考える。

村医と著述

—河内国坂村三浦ランブ蘭阪の場合—

末 中 哲 夫

近世後期、京阪地区の在村儒医の著述を手掛りとして、諸分野にわたる考察の実証性と、文化活動の状況の一端をのべる。

〔資料〕 大阪府枚方市牧野坂2—7—29、三浦義徳氏

(第33代、医院内科開業)

〔家系〕 三浦義明…20 義信—21 信道—22 定道—23 秀道

三浦玄丹…26 春道—27 義方—28 蘭阪—29 良道(下略)
号梅林軒

〔蘭阪〕

明和2—天保14・11・15、79歳。名義徳、字季行・子行・

1765—1843 士行・宜登古。号蘭阪・南郊・出雲行者・括囊館・醉古

堂など。通称玄純。家名玄順堂。

〔著作〕

医書…衍義傷寒論・傷寒論逸・九卷類聚・爾雅名物小
識・名物撫古小識・難經辨註・難經正文・治痘小識・

治痘新書・近古医史

隨筆：或人物語・雄花艸子・仮初草

歴史：温故園・文物古今通志・川内撫古小識・金石古文

模勒帖（模刻鐘銘帖）

地理：地志糾纏

紀行：勢遊草・遊和紀行・遊南河内記・詣千光寺記・登

鷲峰山・石川紀行・斑鳩日記

△付記 友人の著作を出版。御園常言『阿豆満安曾比歌解』

中井微頭『古囊考』▽

〔交流〕

師……小野蘭山・鈴木蘭園・佐渡法眼

在所……井上桐亭・同金橋・岡田鶴鳴、小磯逸子（岡田逸）、

井上雀子

大坂……藤井高尚・八木巽所・松本愚山・慈雲尊者・藤沢

東畎・本居内遠・西田直養

京都……御園常言・中井微頭・梅川重高、以文会員

奈良……穗井田忠友

〔参考書目〕『枚方市史』本編、『大日本金石史』木崎愛吉

書等。

（兵庫教育大学）

医師木戸麟の近代社会への貢献

丸山 知良

明治十一年九月三十日に版權免許を受けて群馬県では小学校教科書『修身説約』を刊行した。群馬県令楫取素彦はその第一巻に序文を掲げ「文明開花が説えられている。欧米がよいとか中国の伝統を尊ぶとかいう。群馬県は物産に富み、その輸出が極めて多く、外国商人との交流もしばしばあるので欧米の文明開花の考え方や風俗が入り易い。このことはすぐれた反面、弊害も免れ難いところがある。欧米が進んでいるのは勤勉なことにある。その進んだ位置に一遍には到着しないが、次第に進歩させなければならぬ。ただ群馬県人は勤勉で苦しみを乗り越えて産業を發展させているから、欧米をうらやむ必要はない。管下の学校に於いて本書によって学べば弊害を抑え自から勉学の道を開くことができよう。」という。

本書は群馬県内ばかりでなく新潟県、福島県などの隣県